

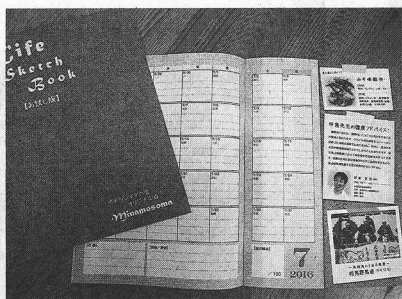
まだまだ

東北 復興日記



▶▶ 196

五年七カ月前、約七万人が住んでいた福島県南相馬市。震災直後には一万人まで減少したとも言われます。今年六月時点で六万三千人余に回復しましたが、内訳は十四歳までが七千人弱、生産年齢人口(十五〜六十四歳)が三万六千人に対して、六十五歳以上は二万人超で、三分の一が高齢者という町になりました。



ベテランママの会代表
番場さち子さん



日々の出来事 カレンダーに

以前は三世帯同居だったのに高齢者が一人で暮らす家も目につくようになりました。そこでベテランママの会が「エディングノート」(自分史ノート)の作成です。自分の歩みや体験、特に東日本大震災や原子力災害の経験を次世代に語り継ぐために書いていただくのですが、その前段階として、今年「ライフスケッチブック」(写真)というものを作製しました。日々の出来事を書き込めるカレンダータイプのノートです。

これは私の母が、日記帳代わ

りにカレンダーに予定や出来事を簡条書きにして、こたつテーブルの下に大事そうに挟んでいるのを見ていたことがきっかけでした。開くとA3サイズになるノート型のカレンダーには、その季節に南相馬で食されてきた郷土料理や健康メニューの写真とレシピ、南相馬市立総合病院の医師たちからの一言健康アドバイス、かつての南相馬の風景写真を入れました。エディングノートに移る前に、書き癖をつけていた

だく狙いです。このノートが予想外に好評で作り手側としてうれしい誤算でした。普段お世話になっている医師たちの趣味や特技を掲載したことも楽しかったようです。

エディングノートは自分史だけでなく、残りの人生を豊かに楽しく過ごしていただくための希望のノートとなることでしょうか。ご自身の人生を振り返っていただき、親から受けた教育や家訓なども書いていただきます。一時は震災によって失われた南相馬の暮らしを思い出し、子や孫へ、語り伝えていただきたいと思えます。

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。